

会 議 録

承認									
会 長	白出委員	谷委員							
4/17	4/26	4/20							
《開催日時・場所》			令和 4 年 3 月 25 日（金曜日） 14：00～16：30 岸和田市役所新館 4 階 第二委員会室						
《名 称》 令和 3 年度 第 3 回岸和田市都市計画審議会									
《出席者》									
（審議会委員出欠状況）									
赤坂	石田	伊勢	大原	奥	笹倉	下村	白出	染川	谷
○	×	○	○	○	×	○	○	×	○
所	殿本	中井	永埜	馬場	久	昼馬	福島	松井	雪本
○	○	○	○	○	○	○	×	○	○
（委員 20 名中、16 名出席）									
堤副市長 事務局：幹 事：松下まちづくり推進部長、山田都市計画課長、日下建設指導課長 書 記：都市計画課：藤井、笹島、奥、畑谷、中平 関係課：市民課：生嶋、仲村 建設指導課：成子 産業政策課：上東、公文、中島、藪 市街地整備課：秦、小竹									
《傍聴者》 1 名									
《概 要》									
■諮問事項 【第 1 号議案】 南部大阪都市計画火葬場の変更（岸和田市決定） ■報告事項（令和 4 年度諮問予定案件） <ol style="list-style-type: none"> 1. 準防火地域の指定拡大について 2. 岸和田市都市計画マスタープランの改定について 3. 岸之浦地区における都市計画変更について 4. 岸和田旧港地区地区計画の変更について ■その他 <ol style="list-style-type: none"> 1. 山直北地区のまちづくりについて 2. 令和 4 年度スケジュール（案）について 3. 次回の都市計画審議会の公開・非公開について 									
《内 容》									
■岸和田市審議会等の会議及び会議録の公開に関する条例等について （会 長） ・ 令和 3 年度第 3 回都市計画審議会の会議録承認者として白出委員と谷委員の 2 名を指名。									
■諮問事項 【第 1 号議案】 南部大阪都市計画火葬場の変更（岸和田市決定）									

第1号議案について、都市計画課より説明。

【質疑の概要】

- (久会長) ・ただいまの内容について、ご質問・ご意見はあるか。
- (屋馬委員) ・土壌汚染については問題がないのか。
- (市民課生嶋課長) ・令和元年度に土壌汚染調査を行ったが、現時点では影響のない範囲であるという結果である。
- (久会長) ・今後、事業者を決定していく段階で再度調査を行い、進めていきたいと考えている。
- (久会長) ・ゼロではなかったが、環境的に、あるいは施設供用に際して影響のある範囲ではないということ。
- (谷委員) ・周囲の道路について、大阪和泉泉南線から火葬場へ向かう途中で、道路の舗装が傷んでいるが、整備は行うのか。
- (市民課生嶋課長) ・道路の状況については住民の方からもご意見をいただいております、火葬場の供用開始に向けて、道路の舗装整備についても一定対応するという事で関係課と協議している。
- (屋馬委員) ・周辺では、地面を掘ると臭いがしてくると感じている人もいますので、その調査もしっかりとやっていただきたい。
- (下村副会長) ・生活環境影響評価を実施した際、調査した項目について教えていただきたい。
- (市民課仲村主幹) ・調査項目は、大気質・騒音・振動・悪臭・交通量・景観について実施している。
- (久会長) ・他にご質問等がないようなので答申に移ることとする。
- (各委員) ・異議なし。

【答 申】

第1号議案について、原案のとおり同意する。

■報告事項（令和4年度諮問予定案件）

1. 準防火地域の指定拡大について

準防火地域の指定拡大について、都市計画課より説明。

【質疑の概要】

- (久会長) ・ただいまの内容について、ご質問・ご意見はあるか。
- (所委員) ・指定拡大区域から除く本町地区は、地図上ではどの部分か。
- (都市計画課藤井参事) ・蛸地藏駅から海側へ行ったあたりの、地図で白抜きになっている部分が本町地区である。

2. 岸和田市都市計画マスタープランの改定について

岸和田市都市計画マスタープランの改定について、都市計画課より説明。

【質疑の概要】

- (久会長) ・ただいまの内容について、ご質問・ご意見はあるか。
- (所委員) ・資料p5の「革新的技術」の項目で「新たなニーズへの対応：自然・歴史・文化資源等を活用した魅力ある空間形成」と記載されているが、これは既存の歴史・文化を守

るということも含め、脱炭素の意味もあると考える。

- しかし、この項目を読んでいると、既存の財産をきちんと次世代に繋ぐということが抜けているように感じる。
- 例えば準防火地域の指定を拡大する話があると、どうしても建て替え促進という話が出てくるが、建て替えることは脱炭素ではないと私は認識しており、既存のものを大事に使いながらも防火に関して安全性を図るということを記載する方がいいのではないか。

(都市計画課藤井参事) • 頂戴したご意見を踏まえ検討したい。

- (久会長)
- 今のご意見にはいくつかの観点があるので、少し整理した方がいいと考える。
 - 昔からのフロー型からストック活用型の時代になってきており、これは道路等の公共施設についても同様で、今あるものをいかに活用し長持ちさせるかということで、長寿命化計画等も作成されている。
 - そういう観点も含め、ひいては低炭素に繋がってくるのではないかとのご意見であろうと考える。

- (下村副会長)
- 現在の試案で都市計画公園の項目があるが、これを記載するためにはみどりの基本計画をきちんと整理する必要がある、これだけでは内容が不足しているのではないか。
 - 今は市街化区域内で開設されている都市公園を中心に配置を考えているが、みどりの基本計画では、環境保全系統・レクリエーション系統・防災系統・景観形成系統の4つの系統に区分し、みどりのネットワークを市域全域で作り上げていく計画となっている。
 - 都市計画制度では、都市計画決定している公園以外はなかなか計画に位置付けられないことは理解しているが、ネットワーク的な発想がどうしても欠けてしまう。
 - どれくらいの公園面積を確保していくのか、実際に何をしていくのか、その辺りまできっちりと数値があった上で図があるのであれば実現可能性が窺えるが、この辺りの図を都市計画マスタープランとして入れるのは少し気になる。
 - 都市公園だけで話をしていいののかも含め、もう少し検討の余地があるのではないかと感じる。

- (都市計画課藤井参事)
- 資料 p40 の図は公園の視点だけで入れているものではある。
 - 仰っていただいたように、みどりの基本計画では総合的に、みどりの広い定義の中で検討しているので、その辺りは連携・調整を図りながら検討していく。

- (久会長)
- 資料 p15 にはみどりのネットワークの記載があるが、p40 にはいわゆる拠点整備の話が書かれており、ここを上手く連動させるというご指摘かと考えるので、また検討いただきたい。

- (永壁委員)
- 資料 p4 の社会状況の変化として「人口減少・超高齢社会」の項目があり、現状と課題や方向性は書かれているが、具体的にどのような対策を考えているのか教えていただきたい。

- (久会長)
- その辺りはどちらかと言うと総合計画の話にはなるが、事務局で分かる範囲ではどうか。

- (都市計画課藤井参事)
- 全国的に人口減少が進む中で、岸和田市としても人口減少をできるだけ緩やかにするということが、今回の総合計画で記載される予定である。
 - 総合計画の中では、岸和田市は傾向として子育て世代の転出が多いという分析が出ているので、まずはそれを抑える必要があるということが一番に挙げられている。

- (永壁委員)
- もう少し具体的に、岸和田市としてのポイントはどうしたいのかがないと、アクション

ンがあるような都市計画になっていないように感じる。

- (都市計画課藤井参事) ・具体的にどんな事業をするかということは、都市計画マスタープランを受けて作成する個別の事業計画の中での話となる。
- ・都市計画マスタープランの中では、ひとつのものに特化するというよりも、全体のバランスをどう取っていくかということが大事になるので、そういった視点で記載をしている。
- (久会長)
- ・子育て世代の転出先として、ひとつは和泉市の和泉ニュータウンの辺りではないかと感じているが、それは都市計画だけではなく、商業施設が充実していたり、小中一貫校の設置など非常に良い教育環境づくりをしていたり、そういった総合的なものに惹かれて転出しているのではないかと考える。
 - ・岸和田市の場合も、そういった総合政策として引きとどめていく方策が必要かと考えるので、この辺りはまた総合計画審議会の中でもしっかりと議論しないとイケない。
- (松井委員)
- ・資料 p4~p5 で、各項目と SDGs の繋がりを記載しているのは素晴らしいと感じている。
 - ・私は SDGs の研究者でもあり、アイデアを 3 つ出させていただく。
 - ・1 つ目は、SDGs の理念は全部が繋がっているということなので、資料 p4~p5 に全 17 ゴールを記載できないか検討いただきたい。
 - ・特に、社会状況の変化の「SDGs (持続可能性・多様性)」の項目にはゴールの記載がないが、例えば「目標 5: ジェンダー」「目標 10: 不平等」「目標 16: 平和」などがここにあってもいいのではないかと感じた。
 - ・また所委員が仰った、何を次世代に継承して残していくのか、将来像を一緒に考えるということは、持続可能の本質であるので、それもこの SDGs の項目にあってもいいのでは。
 - ・2 つ目は、とことん懇話会について、すごく大事な活動をされているので、懇話会の経緯やそこでの意見がどう計画に反映されているのか記載いただきたい。
 - ・3 つ目は、SDGs は、17 のゴールを決めて 169 のターゲットで行動に落とし込み、232 の指標で進捗を測るもので、自分でゴールを設定しそれをレビューする、プレッジ・アンド・レビューが本質である。
 - ・まちづくりにおいても、KPI を設定し、しっかりと数値で測ってほしい。
 - ・近々、内閣府の SDGs プラットフォームから、自治体のローカル指標が公開されてくるので、参考としてみてはどうか。
- (都市計画課藤井参事)
- ・総合計画では 17 のゴールすべてを含むことになるが、その中で都市計画の分野で考えられるものを記載しているところ。
 - ・次世代に何を残すのかという点については、所委員のご意見も含めて検討していきたい。
 - ・とことん懇話会の経緯等については、計画の本体ではなく資料編等で情報発信するなど、総合計画とも連携しながら工夫したい。
 - ・進捗管理の指標については、総合計画の方で全ての施策を踏まえた中で進捗管理のための指標を設定するため、そちらで管理することを考えている。
 - ・情報をいただいたローカル指標についても、今後参考にしていく。
- (久会長)
- ・資料 p4 の「SDGs (持続可能性・多様性)」の項目のみ、SDGs のゴールが記載されていないのは、何か意味があるのか。
- (都市計画課藤井参事)
- ・SDGs の項目は理念的な考え方になるところであるので、記載するとすれば 17 全て

のゴールが当てはまるかもしれないと考えているが、全てとなるので敢えて記載を控えたところである。

- (松井委員) ・それであれば、SDGsの項目を一番に持ってきて、残り5つの項目を包含するような記載とすれば分かりやすいのではないかと考える。
- (下村副会長) ・広域連携について、広域連携自体は非常に大事な話で、交通網の広域連携は良いと思うが、例えば都市施設の市町村連携となると今は火葬場とごみ焼却場しかなく、あまり広域連携を書きすぎると、本当にやっていけるのか疑問がある。
- ・また交通体系について、広域の都市計画道路の整備率のみならず、サイクリングロードやウォーカブルなまちづくりについても着目する方が良いのではないかと考える。
- (馬場委員) ・防災・危機管理の点からいうと、災害のリスクは地域によって特性があり、都市全体が同じリスクではない。
- ・いろいろなメニューが書かれているが、それをどう空間に落とし込んでいくかが重要であり、ある程度地域を特定していかないとあまり効果的とはならない。
- ・市民の方とリスクコミュニケーションをしながら、地域毎のリスクに応じた対策を考えていければメリハリも出てくるのではないかと考える。
- (久会長) ・堺市西区で住民の方々とまちづくりの議論をしている中で、面白い観点のアイデアがあった。
- ・堺市西区は岸和田市と似て海側から内陸部まで細長い地形をしているが、例えば津波で海側が被害にあっても内陸部は無事であろうし、一方内陸部が被害を受けるような災害があっても海側が無事ではないか、ということで、全域が一斉に被害を受けることはないので、無事な方へ一時的に避難することができお互いを助け合えるのではないかとこのものである。
- ・法律で決められているような災害計画をつくると、どうしても小学校区単位や地域単位でまとまって考えてしまうが、避難所など施設整備をするときに、市内の中でお互い補い合うようなネットワークも想定していけば、面白い計画づくりができるのではないかと。
- ・またそれは岸和田だからこそできるのではないかと感じており、市内のそれぞれの地域毎で支え合うような仕組みづくりを考えていただきたい。
- (伊勢委員) ・環境に配慮したまちづくりを進めるということで、公共交通の充実という文言は書かれているが、自動車の利用を抑制するような施策も同時にやっていくことが重要と考えており、変更が可能であればそういった文言も記載する方が良いのではないかと。
- ・仮に環境負荷のないような自動車ができたとしても、我々が移動するときに、1人だけで大きなスペースを取りながら移動するというのは、空間効率的に良いものでなく、できるだけ少ないスペースで多くの人を運ぶというのが欧米でも主流になっている。
- ・これから山直北地区でも次世代のまちづくりを進めるという意味では、自動車利用者から少し批判はくるかもしれないが、強い意志を表明する意味でも文言として追加してもいいのでは。
- (久会長) ・欧米の都市計画は、自動車にご遠慮いただくような都市計画にシフトしており、まだまだ自動車にも優しいまちづくりをしようというのは日本だけである。
- ・ゼロカーボンという観点でも一番負荷をかけているのは自動車であるので、欧米とは社会状況の違いはあるが、本当に今まで通り自動車に優しいまちを続けるのかということも協議いただきたい、というご意見かと考える。

- (松井委員) ・低炭素ということばが書かれているが、10年程前には低炭素の言葉は使われなくなっており、今はすべて脱炭素に変わっているので、変更するようお願いする。
- (下村副会長) ・準防火地域の指定拡大とも関連するが、阪神淡路大震災の時、東の灘区の辺りは延焼が少なく、1軒で火災が起こっても隣に燃え移らなかったが、西の方の区では木造住宅が多く、焼け止まったのは道路や耐火建築物であった。
- ・一定の空地があればそこで延焼を防ぐことができ、空地を作るために建ぺい率を下げるという方法があり、例えば敷地が150㎡あれば前面と裏面に庭を取ることができ、また200㎡あれば隣地側も入れて3面に、300㎡あれば4面に庭を取ることができる。
- ・しかし岸和田市の敷地の状況等を見ると、敷地面積100㎡未満の割合も多くなかなか難しい状況があるので、他の手段として、例えばみどりを活用する方法もある。
- ・タイサンボクやアラカシ、クスノキ、シャリンバイ、マテバシイなど、燃えてもすぐに火が付かない、いわゆる耐火性のある植物を隣地側に植えておくと、樹木自体は燃えてしまったが隣地への延焼は抑制したということも実証されている。
- ・緑化と防火を合わせて、何か考えていくことはできないだろうか、と感じた。
- (久会長) ・大阪府の事業でみどりの風の道という取り組みがあるが、道路とみどりを合わせて大気環境あるいは防災上機能させようというもので、合わせ技の考え方があって良いのではというご意見である。
- ・私からも1点お伝えすると、このコロナ禍の2年間で私たちの生活スタイルが変わってきている。
- ・拠点整備というのは人が集まることを前提としており、また交通の場合は移動をするという観点で考えていたが、この2年間は集まらない・動かない・移動しないライフスタイルがどんどん増えてきた。
- ・拠点整備の集まるという考え方から集まらないという考え方、またあまり移動しないで生活をするという動き方へ、そろそろ都市計画的にも考えていく時期ではないかと考える。
- ・具体的に何かとは言えないが、私たちの生活そのものが変わることによって、都市計画そのものも変わってしまうという観点を、考えておいてもいいのではないかと感じているので、アイデアを出し考えていきたい。
- (永壁委員) ・会長が仰ったのはまさにその通りで、岸和田市は大阪市からも近いので通勤も可能であり、また通勤しないでテレワークもできるので、そこを売り出していくと良いものができるのではないかと感じた。
- ・現在、「革新的技術」の項目に記載されていることをもっと突っ込んで考えていけば面白い都市計画になるのではないかと。
- (久会長) ・大学についても、これからは広大なキャンパスは必要ないのではないかと話も出てきており、そういう意味では、公共施設としての集会施設の規模等についても考え直す時期でもあるのではないかと。
- ・他にご意見は無いようであるので、これまでのご意見の参考により良いものにして、また次回以降も議論していきたい。

(換気のため5分休憩)

3. 岸之浦地区における都市計画変更について

岸之浦地区における都市計画変更について、都市計画課より説明。

【質疑の概要】

- (久会長) ・ただいまの内容について、ご質問・ご意見はあるか。
- (下村副会長) ・1つ目は、緑色の緑地の部分については、臨港緑地になるのか。
・2つ目は緑化の件について、堺市の海側では工場立地法に規定されている条例で緑化率を20%から緩和していると思うが、岸之浦地区地区計画の緑化率は10%となっており、少ないのではないか。
・3つ目は、東側の湾になっている部分は、用途地域や臨港地区の指定はしないのか。
- (都市計画課藤井参事) ・1つ目の緑地については、基本的には臨港緑地になる。
・2つ目の緑化率については、阪南2区全体で緑地の整備も行っており、それにプラスして、それぞれの敷地で10%の緑化をしていただく考え方である。
・3つ目について、令和2年の線引き見直しでは今後5年以内に竣工の見込みのあるところを対象として市街化区域編入を行ったが、東側の緑地等の部分の整備予定はそれよりも後であるため、現在は用途地域・臨港地区等の指定もされていない。
・今後、事業の進捗に合わせて市街化区域編入等について協議・検討していくが、最終的に建物が建つような場所と、そうではない干潟のような場所とを区分けしながら考えることとなる。

4. 岸和田旧港地区地区計画の変更について

岸和田旧港地区地区計画の変更について、都市計画課より説明。

【質疑の概要】

- (久会長) ・ただいまの内容について、ご質問・ご意見はあるか。
- (永野委員) ・南海トラフ地震の発生が懸念される中、この港湾部に病院を建ててもいいのか。
- (都市計画課藤井参事) ・水門を閉めれば、この地区内は津波等の心配は基本的にないとされているが、必ずしも水門が閉まっているとは限らないので、そういったことも含めて事業者には一定の対策を検討いただく必要はあると考える。
- (下村副会長) ・既存の建物を建て替えたり、またこれから再開発事業を行うような計画なのか。
・その場合、再開発事業は組合型なのか、市も地権者としてその組合員になるのか。
- (都市計画課藤井参事) ・当初は、再開発型の地区計画を決定し、一部埋め立て事業を行いながら再開発を行ってきた経過がある。
・今回は、その地区計画を変更するもので、新たに全てをリセットするのではなく、土地利用が進んでない場所の土地利用促進を図りたいというもの。
- (久会長) ・この地区は景気が良い時に計画をつくって動かしてきた訳であるが、その後状況が変わってきたので、現状に即しながらより活性化方向を探っていく中での地区計画の変更ということである。

■その他

1. 山直北地区のまちづくりについて

山直北地区のまちづくりについて、市街地整備課より説明。

【質疑の概要】

- (久会長) ・ただいまの内容について、ご質問・ご意見はあるか。
- (屋馬委員) ・山直北地区のまちづくりということであるが、この拠点より山側は愛彩ランドを含め山直南になるかと思うが、なぜ山直北地区となっているのか。
- (市街地整備課秦参事) ・現在、泉州山手線が突き当たる交差点が三田町地内であることから山直北地区と仮で

名前を付けている。

- ・今後、周辺地域も含めて新たな視点で愛着を持っていただくために、新しいまちの愛称の募集を行う。

(夙馬委員)

- ・現在、ゆめみヶ丘岸和田で住宅が建っているが、そこも含めて計画を立てる方がいいのではないかと。

(久会長)

- ・区画整理事業等を検討している泉州山手線沿道の拠点地区を、山直北地区のまちづくりと呼んでいるが、ここを拠点にして、山手地区全体の活性化を図ることができるので、山直南も含めて山手全体を考える拠点にしてはどうかという問いかけかと考える。

(市街地整備課参事)

- ・土地区画整理事業等の土地の利活用については地権者の皆様とお話をさせていただいているところであるが、泉州山手線の整備や公共交通である路線バスなどを通じた拠点の形成については、その地区だけでなく周辺地域も含め、岸和田市の山手地区、丘陵部全体の活性化を目的とした取り組みである。

(夙馬委員)

- ・牛滝山まで含めた方が、より発展するのではないかと。

(久会長)

- ・近畿大学泉州高校がゆめみヶ丘の近くにあり、今は自前のスクールバスを走らせているが、朝・夕のバスルートを少し延伸してもらえば、おそらくこの地区の通勤・通学の方と逆ルートで乗ることができるので、検討いただければありがたい。

(大原委員)

- ・愛称募集のチラシを見ると、大阪・堺方面や関西空港から人を呼ぶという風に見えるが、そういう構想はあるのか。

(市街地整備課参事)

- ・現在、泉州山手線がこの拠点のところまで止まっているが、将来的にはこの道路自体が大阪都心部から空港連絡道路を通じて関西国際空港まで繋がる路線となる。
- ・また、この道路は通常の車の交通だけでなく、公共交通も含めた交通の軸になると考えているので、そういったことから、大阪都心部から関西国際空港に繋ぐ拠点のイメージとしているところである。

(大原委員)

- ・人が集まるところに拠点をつくるので、是非とも観光だけでなく買い物やグルメなど、若い人が来たいと思うようなコンセプトを入れて、市外からも来てくれるようなまちづくりをしてほしい。

(殿本委員)

- ・泉州山手線とまちづくりを合わせて取り組んでいこうと、地元の方へ色々話をしていると聞いている
- ・また、公共交通の取り組みとして先駆けて、新規バス路線を先駆けて導入しようとしていただいております、山手地区の交通確保において非常に重要な取り組みであり、期待している。
- ・泉州山手線の今後のスケジュールはどうなっているのか。

(市街地整備課参事)

- ・泉州山手線と山直北地区のまちづくりの取り組みを合わせて進めていくことが重要。
- ・本市でも関係する土地の調査等を先行して着手するなど、できるだけ早い時期に事業化できるように、府市協力しながら進めているところ。

(伊勢委員)

- ・交通の拠点になるということだが、先ほどの都市計画マスタープランの案件でも話があったように、自動車依存型にならないように公共交通も合わせてまちづくりを進めていただきたい。

- ・また、様々な利用者のニーズに対応した交通環境を備えたまちづくりを期待する。

(久会長)

- ・自転車レーンの整備や、キックボードなどの新しい交通手段を受け入れられるようなまちづくりをしていただきたいということ。

(白出委員)

- ・山直北地区はゆめみヶ丘岸和田や阪和自動車道岸和田 IC に近く、自動車にとって便

利なところであるが、自動車を利用しない人も移動しやすいように、例えば高速バスが停まるようになるなど検討いただきたい。

(久会長)

- 高速バスに乗ってくる場合、市内移動はローカルバスに乗り換えることになるが、この拠点でスムーズに乗り換えができるようになれば、より便利になると考える。
- その際、通常はバスを乗り換えると新たに運賃が発生してしまい、乗客が利用をためらう要因となるので、追加の運賃がかからずに乗り換えできるような仕組みも検討いただきたい。

2. 令和4年度スケジュール（案）について

令和4年度スケジュール（案）について、都市計画課より説明。

【質疑の概要】

(久会長)

- ただいまの内容について、ご質問・ご意見はあるか。

(各委員)

- 意見なし。

3. 次回都市計画審議会の公開・非公開について

次回開催候補日について、以下のとおりとし、併せて公開について了承を得た。

- 次回開催候補日；令和4年6月2日（木）午後
- 諮問予定案件；特定生産緑地の指定について
- 報告予定案件；岸和田市都市計画マスタープランの改定について
下水道の変更について 等